

(建設業界の) 職業教育の強みは優秀な先生がいることだ。本会のような自主的な研修組織が優秀な先生と生徒を育てていく。本会を裏りのあるものとし、今後の教育に生かしてほしい」と語った。

議事では、14年度事業と同終始決算報告に続き、15年度事業計画などを満場一致で承認した。

引き続き行われた初日の研究協議では、「Reproduction (再生)」をテーマに製図、計画、法規、構造、施工の5分科会が行われた。



構造分科会では模型を使って津波荷重を説明

専門高校は優秀な先生、生徒育てる

東日本建築教育研

北海道、東北、関東、北信越、東海の5ブロックの工業高校建築科など132校で組織する、東日本建築教育研究会の第65回総会と研究協議会が7月30、31の両日、山形県鶴岡市の東京第一ホテル鶴岡で開かれ、任期満了に伴う役員改選で小林晶代会長(東京都立墨田工高校長)を再任したほか、夏期研究協議会や第34回全国高校生建築製図コンクールを開催などを柱とする2015年度事業計画を承認した。

開会式の冒頭、あいさつに立った菅原和明山形大会実行委員長(山形県立鶴岡工高校長)は「日本の産業発展に貢献してきた専門高校の役割は大きく、今後の中核を成していく」と述べ、「国内の

このうち構造分科会では、東日本大震災を踏まえ「これからの建築構造設計」をテーマに仙台市立仙台工高建築科の益野英昌教諭らが、建築物の津波荷重などについて説明。津波により被災した東北の建築物の被害状況を報告するとともに、参加した各校の教諭らに簡易的な2階建ての模型を作成させ、津波実験装置を使って構造物に作用する津波の影響などを解説した。

